

平成 28 年冬季ボーナスアンケート調査

今冬のボーナス予想支給額は、2年ぶりに改善（マイナス幅がやや縮小）
～ 製造業は悪化、非製造業がやや改善～

平成 28 年冬季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを官公庁・民間企業で勤務する給与所得世帯を対象にアンケート調査を行いました。

【ポイント】

ボーナス支給額の増減予想（昨年冬比）

全体では、「上回る」が 11.3%、「下回る」が 16.0%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は 4.7（昨年冬 7.0）と、2年ぶりにマイナス幅がやや縮小し、改善した。民間企業では、製造業は 2年連続で悪化したが、非製造業が 2年ぶりにやや改善した。年代別では、10・20代で悪化し、それ以外の年代は改善した。

ボーナス予想支給額

40万円未満が全体の約 6割を占めた。60万円以上は昨年冬に比べ、やや増加した。支給額区分別では、「20万円未満」で「下回る」の割合が最も高かった。

ボーナスの使い道

首位は「預貯金」と堅実な姿勢が続く。消費に関連する項目のすう勢からは、消費には控えめな姿勢がうかがえる。

ボーナスを貯蓄する目的

昨年冬に続き、「老後の生活への備え」が最多となった。「病気・災害への備え」が 4位（昨年冬 6位）となるなど、将来に備え、貯蓄を重視する姿勢が強まった。

ボーナスの運用方法

「銀行普通預金」が 2/3 超と最多となった。また、リスク性商品では「外貨預金」が昨年冬と比べ、増加した。

【調査概要】

1. 期 間：平成 28 年 11 月 1 日～11 月 18 日
2. 対 象：鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法：山陰合同銀行本支店の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,460 枚）
返信用封筒にて回収
4. 回 答 数：有効回答数 560 枚（回収率 22.8%）
（県別内訳：鳥取県 295 枚、島根県 260 枚、その他 1 枚、不明 4 枚）